

レジメン登録フォーマット

申請年月日		使用開始日	平成27年1月1日
登録診療科	消化器内科・外科	申請医師	化学療法委員会承認 平成 26 年 月
レジメン名	ペバシズマブ + FOLFIRI		
疾患名	大腸がん	適応の備考	CVポート
適応分類	進行再発		
1コース日数	14	日間	総コース数
抗がん剤投与量・投与日	ペバシズマブ5mg/Kg day1、イリノテカン150mg/m ² day1、5-FU400mg/m ² day1、2400mg/m ² day1		
治療スケジュール・投与日程（投与日は●）	(day)		

投与順	ルート・方法	薬剤名	投与量	投与時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14																							
1	主ルート	生食20mL	1 本 / body		●																																				
	中心静脈注射		/																																						
2	主ルート	生食50mL	1 本 / body	5 分	●																																				
	中心静脈注射		/																																						
3	主ルート	生食100mL	1 本 / body		●																																				
	中心静脈注射	ペバシズマブ	5 mg / Kg	90 分	●																																				
		投与速度は1回目90分、忍容性が確認されれば、2回目60分、3回目以降30分で投与可。																																							
4	主ルート	生食250mL	1 本 / body	30 分	●																																				
	点滴静注	ホスアプレピタント注150mg	1 本 / body		●																																				
		抗がん剤投与の1時間前に30分かけて点滴																																							
5	主ルート	ハロセトン注バッグ0.75mg50mL	1 本 / body	30 分	●																																				
	中心静脈注射	デキサート注射液1.65mg/0.5mL	3 本 / body		●																																				
6	主ルート	5%ブドウ糖液500mL	1 本 / body	90 分	●																																				
	中心静脈注射	イリノテカン	150 mg / m ²		●																																				
		Rp6とRp7を同時投与する																																							
7	主ルート	5%ブドウ糖液250mL	1 本 / body	2 時間	●																																				
	中心静脈注射	レボホリナート	200 mg / m ²		●																																				
		Rp6とRp7を同時投与する																																							
8	側管	生食50mL	1 本 / body	5 分	●																																				
	中心静脈注射	5-FU	400 mg / m ²		●																																				
9	主ルート	生食100mL	1 本 / body	46 時間	●																																				
	中心静脈注射	5-FU	2400 mg / m ²		●																																				
		携帯型テイスホーサブル注入ポンプ 希釈後の液量を総量140mLとなるよう調製																																							

※並行して投与する場合は、コメントを入力する。(例: Rp2とRp3を同時に投与開始する。)

【投与上の注意】

Rp6とRp7を同時投与する

・ホスアプレピタントは血管痛が報告されているため、溶解には可能な限り生食250mLを使用すること(最低でも100mL以上)。

・ホスアプレピタントは抗がん剤投与の1時間前に30分かけて点滴すること。

・ホスアプレピタントの次に5-HT3受容体拮抗薬+デキサート注を投与して、その次に抗がん剤を投与すること。

穿刺時に逆血を確認し、ポートの通過を確認すること

ペバシズマブ: 希釈は生食のみ。

ペバシズマブ: 投与速度は1回目90分、忍容性が確認されれば、2回目60分、3回目以降30分で投与可。

・day1デキサート注は、3.3mgでも可